

事例番号:280395

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第二部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

1 回経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 38 週 2 日

16:20 陣痛発来のため入院

4) 分娩経過

妊娠 38 週 2 日

19:40 経膈分娩

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:38 週 2 日

(2) 出生時体重:2728g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.368、PCO₂ 32.8mmHg、PO₂ 24mmHg、

HCO₃⁻ 18.9mmol/L、BE -6mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 9 点、生後 5 分 10 点

(5) 新生児蘇生:実施せず

(6) 診断等:

生後 4 日 退院

生後 7 ヶ月 運動発達面は少しゆっくり

生後 11 ヶ月 下肢の筋緊張は亢進気味

(7) 頭部画像所見:

1歳 頭部MRIで胎児低酸素・虚血やその他の既知の疾患に該当する所見はない

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 2名

看護スタッフ: 助産師 2名

2. 脳性麻痺発症の原因

妊娠経過、分娩経過、新生児経過に脳性麻痺に関与する事象を認めず、脳性麻痺発症の原因は不明である。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

妊娠9週から妊娠37週3日の管理(妊婦健診、検査等)は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 分娩時の管理(陣痛発来のため入院としたこと、内診、分娩監視装置装着等)は一般的である。

(2) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

3) 新生児経過

出生直後、およびその後の新生児管理は一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

原因不明の脳性麻痺の事例集積を行い、その病態についての研究を推進す

ることが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して
なし。